



あなたのこと  
もつと聴かせて

研究主題  
自己を  
探究し続ける  
生徒の育成  
—聴き合うことで深まる  
自己の「ものがたり」—

令和8年度 教育研究発表会のご案内

令和8年6月5日(金)  
9時00分～16時30分  
香川大学教育学部附属坂出中学校

後援  
香川県教育委員会、坂出市教育委員会  
宇多津町教育委員会、綾川町教育委員会  
香川県中学校長会、坂出市中学校長会、綾歌郡中学校長会  
香川県中学校教育研究会、香川県中学校教育研究会坂出・綾歌支部

【鼎談】

テーマ「自己を探究し続ける学びの場をつくる」



講師  
東京大学大学院  
教育学研究科 准教授  
いちやなぎ とも のり  
一柳 智紀 先生

主な著書

『これからの授業研究法入門 23のキーワードから考える』東京図書  
『これからの質的研究法 15の事例にみる学校教育実践研究』東京図書 他



講師  
香川大学教育学部  
准教授  
おか だ りょう  
岡田 涼 先生

主な著書

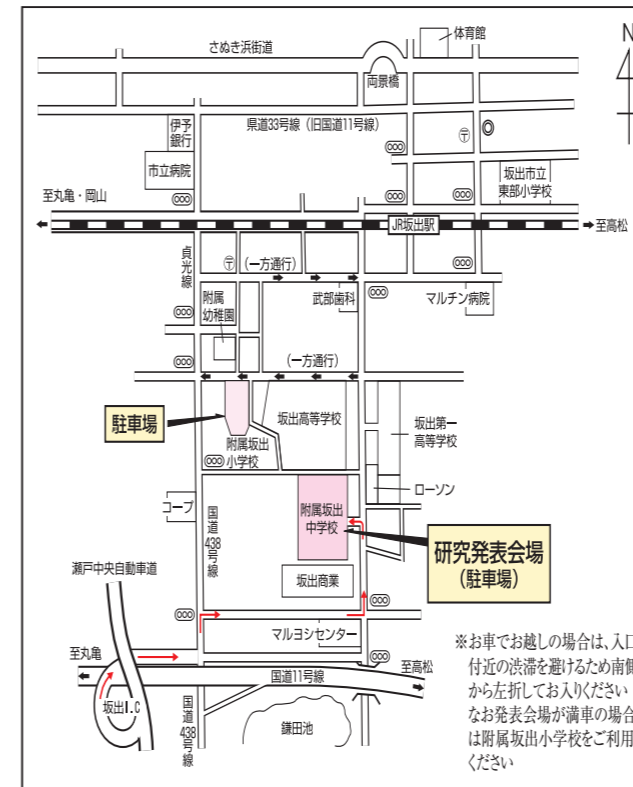
『指導から見取りまで：教室で活かす「メタ認知」大全』明治図書  
『自己調整学習と自由進度学習』明治図書 他

進行・問題提起：本校研究主任 島根 雅史

【講演】

講師 東京大学大学院 教育学研究科 准教授 一柳 智紀 先生

演題 「心に耳を澄ます教室」



申し込み方法

参加を希望される方は、5月21日(木)までに本校ホームページの大会申込フォームにてお申し込みください。

■備考

参加料・資料代：無料  
昼食：事前申し込みにより昼食を販売致します。

■アクセス

鉄道：JR坂出駅より徒歩5分  
自動車：坂出インターより5分  
飛行機：高松空港から車で40分  
※車でお越しの際は、東側よりお入りください。

※今後の社会情勢により、開催方法を変更することもございますので、本校のホームページを随時ご確認くださいませよう願いたします。



(本校HPのQRコード)



香川大学教育学部附属坂出中学校

〒762-0037 香川県坂出市青葉町1番7号  
TEL:0877-46-2695 FAX:0877-46-4428

本校HP <http://www.sch.ed.kagawa-u.ac.jp/>  
本校研究部メールアドレス fusakachu-kenkyu-l@kagawa-u.ac.jp

ごあいさつ



新緑の候、皆様にはますますご清業のこととお慶び申し上げます。  
本校では、研究テーマを「自己を探究し続ける生徒の育成ー聴き合うことで深まる自己の『ものがたり』ー」として、継続的に授業研究に取り組んでいます。ここで言う「ものがたり」とは、ナラティブ・アプローチに基づくものであり、子どもたちが語り合っていくことで、自分自身の認識が書き換えられ、これからの自己のあり方を新たに形成していく過程を大切にしている研究の視座です。そして、この「ものがたり」の視座から授業を計画・実施・分析するサイクルを通して、学ぶ意味や価値を実感し、生涯にわたって学び続けようとする強い意志をもった生徒の育成をめざしています。

本年6月5日（金）に予定している研究発表会では、これまでの試みを土台に、聴き合う集団をもとに自己のあり方を振り返り、新たな自己を見いだそうとする子どもたちの姿を公開します。この聴き合う集団づくりを実現するために、子どもたちが聴きたいと感じる真正な学びを設定すること、語り直しを促す教師のリヴォイシングを効果的に用いること等を手立てとして用いています。このような手立てによって醸成された聴き合う集団と「共創型探究学習 CAN」等の学習は、互恵的に深まり合っていくと考えています。

つきましては、ご多用中とは存じますが、皆様方のご参会とご指導を賜りたく、ここにご案内申し上げます。

香川大学教育学部附属坂出中学校  
校長 松島 充

## 深い学び

## ウェルビーイング

## エージェンシー

## 実現の鍵は「ものがたり」にあり



### 「ものがたり」とは・・・

「ものがたり」は自己を理解する枠組みである。私たちは、出来事と自己との関連を見つめ、その出来事の自分にとっての意味づけや価値づけをすること、つまり語ることによって自己を理解している。本校の学びは、自己の「ものがたり」を更新し続ける「自己の探究」である。

### なぜ「自己の探究」なのか・・・

私たちは、学び方、働き方など、より多様な選択肢のある時代を生活している。そのような時代の中では、より一層「自分はどうか」が問われる。自己の意味世界を拡充し、学びを通して自分の人生を舵取りすることが、ウェルビーイングにつながってくるのである。

### なぜ聴き合うのか・・・

私たちは、民主的で持続可能な社会の創り手として、他者と関わりながら問いや答えをつくらなければならない。聴くことは、情報の受容ではなく、他者を理解したり、問いをもったりすることにつながる行為なのである。他者を理解しながら集団としての「ものがたり」をつむいでいく力は、社会によりよく関わっていくエージェンシーを育むのである。



## 問いを持ち、考え続ける土壌が 生涯にわたり学び続ける生徒を育てる



本校では、生涯にわたって自らの問いを持ち、考え続けることができる「自立した学習者」の育成をめざし、生涯にわたって学び続ける意欲やその基盤となる力の育成を中心に実践研究を継続してきた。近年は、ナラティブ・アプローチとしての生徒の「語り」の研究から、自己を理解する枠組みとしての「ものがたり」を軸に研究を進めている。

探究的な学びが重視されていく中、その主体となるのは自己であり、本校の学びは語ることを通して自己理解や自己形成につながる自己の探究に主眼を置いている。本校のカリキュラムは、学習者が他者との相互作用の中で知識を構成していく社会構成主義を基盤としており、自分なりの考えを持ち、語り合う過程を特に重視している。さまざまな学びの経験が互いに影響し、からみ合うことで、子どもたちは少しずつ自立した学習者に成長していく。その土壌にあるのは、自己の「ものがたり」が他者との共同行為によって深まっていく学校文化である。これまでは、語る行為や、語られたものに主に着目してきたが、今期は聴く行為に着目する。聴き合う集団作りを通して、問いを持ち、考え続ける探究的な学習態度をカリキュラム全体を通して育てていく。

## 令和7年度卒業生が卒業に際して3年間の学びを 振り返って書いた自己の「ものがたり」の例

私は、附属坂出中学校での3年間で、学びを深めることの楽しさを感じた。この学校に入学する前は、学びと聞いて思いうかぶのは勉強のことで学力を上げるというイメージが強かった。でも、教科の授業、語り合いの時間、CANなどを通して、学びに対するイメージが変わっていた。教科の授業では、特に数学の授業が印象に残っている。数学は、計算など公式を使えば、その答えを見つけていくものだと思っていた。でも、この学校での数学は違っていた。もともと決まっている公式や考えから、疑問を探し、それを解決していくことが多かった。決まっているものから別の疑問を見つけるには視点を変えて見なければいけなかったのだと難しく思った。また、疑問が見つかったら解決する方法がわからず立ち止まることもあった。でも、友達と協力しながら探求していく自分なりに答えを出すことができたときは、達成感があったし、ただ問題を克服しただけで楽しむことができたと思う。語り合いの時間では、答えのない問いを一緒に考えるのも楽しかったと思う。語り合いのような話し合いを今まで経験したことがなかったし、やはり語り合いをしたときは、とても難しいと感じた。話し合いをしても、答えが決まらねばなく、どんな話題がなかるといふ、お互いに質問をしながら進んでいく。はじめは難しく感じたけれど、回数を重ねるにつれて、次第に自分で問いを語り合うのが楽しくなっていた。また、異学年で語り合いと同年生との語り合いとは違っていて、同年生では意見がぶつかることも多かったが、異学年では違う意見が多く、1つの問いに対して

深く話し合うことができた。そして、他者との質問をしながら考えを深めていく楽しさを知った。CANでは、自分で身のまわりから問いを見つけて探求するのも楽しかった。答えが存在する問いではなく、答えがわからない問いでも、いろいろな視点から考え、探求するのはとても楽しかった。探求していく中で、次に新しい疑問が生まれてきて、1つ解決していくのが大変だった。でも、新しい疑問が生まれるたびに、クワスターメンバーと意見を出し合いながら、どうすれば解決できるのかを考えてメンバーと話し合うことで自分にはなかった発想も出てきて、さらに深く探求することができたと感じる。そして、CANの3年間の探求は、絶対に自分一人ではできなかったことだと思う。協力しながら探求していくことの楽しさも学んだ。3年間のさまざまな探求を通して、学びの本当の楽しさを知ることができた。学ぶことは、ただ勉強することだけでなく、身のまわりから自分で疑問や問いを見つけて、深く探求することだと思った。この学びは、この附属坂出中学校での経験することではないものだと思うし、この学校でたくさんこの学びができたことは本当に良かったと思う。これから、CANのように探求する事は少なくないと思うので、自分でも問いを見つけ、考えを深めていく、本当の学びを大切にしていきたい。

公開授業Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ および 教科研究協議会

| 国 語  |  |
|--|--|
| 〈研究テーマ〉<br>言葉を捉え直しながら創造性を発揮する生徒の育成<br>―互いの考えを推察し合う国語教室を目指して― |  |
| ■公開授業Ⅱ<br>3年「形と素顔―社会の中で生きる自己―」                               | 授業者：香川 千夏<br>「本当の自分」とは何か。『形』では、外面的役割が内面を高める姿が描かれる一方、『素顔同盟』では、社会的な仮面が内面を抑圧する姿が描かれています。生活経験と二つの作品世界を往還させ、人物像の解釈を基にしながら、そこに生徒が自身の考え方や価値観を乗せて議論する姿をめざします。        |
| ■公開授業Ⅲ<br>1年「君らしさは一エッセーを書く、読む、書く―」                           | 授業者：山崎 大<br>語り手「私」が、過去にとった行動や見た景色に「私」なりの意味を与えていく―それがエッセーの特徴です。さくらもこのエッセー『二十歳になった日』を読みながら、描写や展開にどのようにそれが表れているのかを考えます。その後、書き手として、自分らしく意味付けを施しながらエッセーの創作をめざします。 |
| ■研究協議会   | 〈指導者〉<br>香川県教育委員会事務局義務教育課 香川大学教育学部<br>主任指導主事 准教授<br>尼子 智悠 浅井 哲司  |

| 外国語  |   |
|--|---|
| 〈研究テーマ〉<br>コミュニケーションの喜びを実感する生徒の育成<br>―相手意識をもったやり取りの活動を通して― |   |
| ■公開授業Ⅱ<br>2年「Welcome to Kagawa! ―留学生へのおもてなし―」              | 授業者：入江 里美<br>来日する留学生へのおもてなしとして何を選び、どのように紹介するのか。留学生との交流を通して、相手意識をもったやり取りについて考えます。他者と聴き合うなかで、自分の伝えたいことを自分の知っている言葉でどう表現できるか、試行錯誤する姿をめざします。   |
| ■公開授業Ⅲ<br>3年「ツアーガイドにおすすめ弁当を提案しよう」                          | 授業者：高木 将志<br>自分の意見を伝えて終わる話し合い活動ではなく、対話をつなぎ、話し合いを充実させるためにはどうすればよいかを考えます。他者の意見や考えを聴き、相手の考えを踏まえて自分の意見や考えを表現したり、即興で質問したりしてやり取りを充実させることをめざします。 |
| ■研究協議会   | 〈指導者〉<br>香川県教育委員会事務局義務教育課 香川大学教育学部<br>主任指導主事 教授<br>植松 崇人 中住 幸治  |

| 社 会  |  |
|--|--|
| 〈研究テーマ〉<br>これからの社会のあり方を自ら考える民主社会の形成者の育成をめざした社会科学学習<br>―「社会観」を聴き合うことを通して「社会的自己」を捉え直す― |  |
| ■公開授業Ⅱ<br>1年「多様な地域からなるアジア州とASEAN」  | 授業者：上村 啓介<br>自然や文化、宗教、経済など多様な特徴をもつアジア州を概観し、特に東南アジアに注目していきます。ASEANの協力の仕組みや役割を考え、多様な国々がどのように関わり合いながら地域を形成しているのかを捉え直していきます。 |
| ■公開授業Ⅲ<br>3年「治安維持法」  | 授業者：藤本 大貴<br>天下の悪法と評される治安維持法。悪法と評される理由とそんな法律がどんな価値をもとに成立したのかを追っていきます。そしてその学びから、現代のわが国を新たな視点で捉え直していきます。                   |
| ■研究協議会   | 〈指導者〉<br>香川県教育委員会事務局義務教育課 香川大学教育学部<br>指導主事 教授<br>大西 正芳 鈴木 正行   |

| 保健体育  |  |
|---|--|
| 〈研究テーマ〉<br>健康やスポーツの価値を実感する保健体育学習のあり方<br>―自分の「からだ」を見つめ健康やスポーツと関わることで生まれる「ものがたり」を通して― |  |
| ■公開授業Ⅱ<br>3年「体づくり運動」  | 授業者：村上 貴孝<br>生涯にわたって健康でありつづけるために、継続できる運動とは…？日常生活の中で運動習慣を見出し、自分の健康としっかり向き合う姿を目指します。 |
| ■公開授業Ⅲ<br>2年「球技」ネット型（バレーボール）  | 授業者：廣石 真奈美<br>バレーだからこそ味わえる、チームの仲間とボールを落とさずに「つなぐ」喜びを。ラリーを継続するために、全力で楽しむ姿を目指します。     |
| ■研究協議会  | 〈指導者〉<br>香川県教育委員会事務局保健体育課 香川大学教育学部<br>指導主事 教授<br>谷口 公庸 米村 耕平                       |

| 数 学   |   |
|---|---|
| 〈研究テーマ〉<br>数学を学ぶ意味や価値を見いだし自己形成を促す学びの創造<br>―自ら問いをもち、他者とともに数学的に考え、語ることで生まれる「ものがたり」を通して― |   |
| ■公開授業Ⅱ<br>2年「場合の数と確率」   | 授業者：逸見 翔大<br>「先んずれば人を制す」や「残り物に福がある」ということわざについて、数学的に考察していきます。日常生活やこれまでの学習経験を振り返りながら自己の考えを語り、他者の考えを聞いて、確率についての理解を深めていくとともに、新たな疑問を生み出していきます。 |
| ■公開授業Ⅲ<br>3年「標本調査」  | 授業者：松添 啓子<br>本単元では、制服のあり方を題材に、「誰の意見をもとに決めるのか」と問い合いながら学習を進めていきます。標本の取り方や大きさの妥当性を考える活動を通して、データに基づいて判断することの意味を捉え直します。                        |
| ■研究協議会  | 〈指導者〉<br>香川県教育委員会事務局義務教育課 香川大学教育学部<br>主任指導主事 准教授<br>山野 景子 杉野本 勇気  |

| 技術・家庭   |   |
|---|---|
| 〈研究テーマ〉<br>生活を軸に社会の変化に主体的に関わる実践力を育む技術・家庭科教育<br>―生活を見つめ、語り合い、実践することで生まれる「ものがたり」を通して― |   |
| ■公開授業Ⅱ<br>2年「ウェルビーイング弁当～責任ある消費者としての選択～」   | 授業者：河口 由利子<br>自分も周りも幸せになる社会をめざし、消費者としてどのような行動をすれば良いのでしょうか。食材選択について、理想と現実で葛藤しながら、これからの自分の行動を見つめ直します。   |
| ■研究協議会  | 〈指導者〉<br>香川県教育センター 香川大学教育学部<br>主任指導主事 准教授<br>大西 昌代 一色 玲子  |
| ■公開授業Ⅲ<br>1年「10年使えるものづくり」   | 授業者：加部 昌凡<br>構造が変われば強度が変わります。生活の中から課題を見つけ、ものづくりで問題解決を図る中で、部品にかかる力を理解し、より頑丈で長く使える作品を作るために必要なことは何か考えます。 |
| ■研究協議会  | 〈指導者〉<br>琴平町立象郷小学校 香川大学教育学部<br>校長 教授<br>氏家 徹也 宮崎 英一   |

| 理 科   |   |
|---|---|
| 〈研究テーマ〉<br>進んで自然と関わり、探究する生徒の育成<br>―他者の語りを聴き、つむがれる「ものがたり」を通して― |   |
| ■公開授業Ⅱ<br>1年「ゆれる大地」   | 授業者：島根 雅史<br>東日本大震災で、震源から遠く離れた大阪のビル（咲洲庁舎）を襲った大きなゆれ。その原因は何だったのか。生徒たちは仮説を立て、お互いの考えを聴き合いながら、より妥当な考えを作り出していきます。             |
| ■公開授業Ⅲ<br>2年「酸化」  | 授業者：宮崎 浩行<br>酸素は、生きていくうえで必要不可欠な気体である一方、物体を劣化させる酸化や金属のさびの一因でもあります。酸素は薬か、毒か。探究の中で学んだことをもとに、いつもとは形の異なる酸素を用いた実験で、生徒が語り合います。 |
| ■研究協議会  | 〈指導者〉<br>香川県教育委員会事務局義務教育課 香川大学教育学部<br>主任指導主事 教授<br>堀上 洋平 高橋 尚志  |

| 音 楽   |  |
|---|--|
| 〈研究テーマ〉<br>音や音楽に意味を見出し音楽との関わりを深める学習のあり方<br>―音と心で育む豊かな音楽学習をめざして― |  |
| ■公開授業Ⅲ<br>1年「子どものための歌（旋律創作）」                                    | 授業者：井上 真衣<br>「簡単に覚えやすい旋律をつくるには？」という課題について考えながら旋律創作に取り組みます。他者と聴き合う活動の中で、新たな気づきを得て、表現のよさを音楽的に捉え語り合う授業をめざします。 |
| ■研究協議会  | 〈指導者〉<br>香川県教育センター 香川大学教育学部<br>主任指導主事 講師<br>小澤 聡 長山 弘  |

| 美 術  |   |
|--|---|
| 〈研究テーマ〉<br>創造活動の喜びを通じて生活を豊かにする生徒の育成<br>―実感をともなう創造活動における対話のあり方― |   |
| ■公開授業Ⅲ<br>2年「キミもデザイナー！学校アップデート計画」                              | 授業者：植原 房代<br>学校生活で感じる困りごとから問いを立て、デザインで解決する活動を通して身近な美術への気づきを深めます。本時では、制作者から利用者の視点へと立場を変え、相互鑑賞を通して「デザインすること」や「デザインされたもの」の意味を捉え直します。 |
| ■研究協議会   | 〈指導者〉<br>高松市総合教育センター 香川大学教育学部<br>不登校支援係長 准教授<br>熊田 知香 尹 智博  |

| 学校保健   |   |
|--|---|
| 〈研究テーマ〉<br>安心して関われる居場所の在り方<br>―生徒同士の「語ること」を通じた心理的安全性の向上― |   |
| ■公開授業Ⅲ<br>1年「居場所づくり」                                     | 発表者：高橋 妹子<br>生徒の個々のニーズに応じた受け皿＝居場所を整備するとともに、その居場所で、生徒自身が主体的にセルフケアを実践し、生徒同士で支え合う人間関係を構築することを促す取り組みを行い、研究を通じて、生徒の学校における心理的安全性を向上させ、保健室の生徒の居場所としての機能について考察していきます。 |
| ■研究協議会   | 〈指導者〉<br>香川県教育委員会事務局保健体育課 香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻<br>指導主事 心理実践教育学講座 准教授<br>山田 那央子 谷淵 真也  |

|                            |      |      |       |  |       |       |       |       |       |         |       |       |       |       |
|----------------------------|------|------|-------|--|-------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|
| 8:30                       | 9:00 | 9:30 | 10:00 | 10:15                                      | 11:05 | 11:20 | 12:10 | 13:00 | 13:50 | 14:05   | 15:05 | 15:20 | 16:20 | 16:30 |
| 受付                         | 全体会  | 全体提案 | 移動・休憩 | 公開授業Ⅰ<br>・語り合いの時間<br>・CAN生徒発表<br>・CAN AL会議 | 移動・休憩 | 公開授業Ⅱ | 昼食・休憩 | 公開授業Ⅲ | 移動・休憩 | 教科研究協議会 | 移動・休憩 | 鼎談    | 講演    | 閉会行事  |
| CANステージ発表動画、CANLOG、自分史等の公開 |      |      |       |  |       |       |       |       |       |         |       |       |       |       |

